

第 4 回検討会における主な御意見と対応

1. 温泉利用施設の排水の実態について

主な御意見	対応
<p>1-1. ほう素・ふっ素の負荷の実態</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほう素、ふっ素のフラックスが全体としてどのぐらいあって、そこを理解した上でコントロールしなければいけない。 	<p>御意見を踏まえ、工業分野からの負荷と温泉から湧出する負荷を試算し、比較を行った。</p>
<p>1-2. 温泉利用施設の排水の実態</p> <ul style="list-style-type: none"> ・温泉排水は来客数の変動にともなう日変動、時間変動がある。 ・温泉排水は他の排水とは別に放流させるという話もあるようなので、詳しく調査して頂きたい。 ・実態調査の結果、現実には希釈というやり方でかなり濃度を下がっているということもわかってきたので、事務局提案の追加的な調査を実施し、いくつかケーススタディ的に把握していけばよい。 	<p>今年度、ほう素、ふっ素の濃度が高い源泉を利用する施設について追加的な調査を実施したので、その結果を踏まえて御議論いただきたい。</p>

2. 対応方策について

主な御意見	対応
<p>2-1. 処理技術について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高濃度のものをどこまで処理するのかという目標を明確にした方がよい。 ・対象の濃度（高濃度、低濃度）に応じた排水処理技術を開発していく必要がある。 ・排水処理によって除去されたものがどこに行くのか、という部分についても調査しておく必要がある。 	<p>本年度実施している実証試験では、「実証試験対象水質のふっ素濃度を効果的かつ低コストで概ね半減以下まで処理可能な技術」を公募し、発生した廃棄物の処分費も含め、処理コストを重視した実証試験を行っているところである。</p>

主な御意見	対応
<p>2-2. その他の対応策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対策の面でのメニュー出しをやっていくことが重要ではないか。 	<p>対応方策の整理を行ったので、対応策について御議論頂きたい。</p>

3. 今後の方向性について

主な御意見	対応
<ul style="list-style-type: none"> ・環境基準を達成するために水濁法の規制があるわけであり、環境基準が達成するような状況にあるところに、なぜ規制をしなくてはならないのかという議論にならないよう、整理が必要。 ・酸性水や重金属の対応方策として、地域的にいろいろと工夫をされているところがあるので、そういうところも調査の中で調べて頂くと次年度以降の参考になる。 ・日帰り温泉等についての問題も入れて一緒に扱ったほうがいい。 ・今の暫定排水基準（500mg/l以下）は現状に合致していない。 ・中央環境審議会の平成12年の答申を確認すると、1つは対策のコストの観点から一律排水基準の適用を当面待ちましょうということであった。本検討会の役割を整理していく必要がある。 	<p>これまでの議論や調査結果を踏まえ、総合的な整理を行って参りたい。</p>